手代町（てしろちょう）

市の東南部に位置し、東側の南の一部は綾瀬川を挟み八潮市に境を接する。1931（昭和6）年5月1日、新町名の発足時に大字吉笹原字手白と大字谷古字の一部を1つの大字として独立させ、手代町とした。古くより、手代、手白、手城などと呼ばれ、この中の「手代」が採られた。町の北端には魚屋河岸の跡があり、1650（慶安3）年の供養塔、1710（宝永7）年の庚申塔が見られ、古くから綾瀬川の舟運による江戸との交易で栄えた様子がうかがえる。

町の北部を通る道路は、かつて葛西道と呼ばれ、江戸時代から八條村や潮止村（八潮市）に通ずる本道だった。町内には、中央ポンプ場や社会福祉活動センターなどの公共施設がある。

〈昭和63年1月20日号〉

➡綾瀬川　河岸　舟運

手づくり郷土賞（てふるさとしょう）

地域が誇れるような身近な社会資本整備に対して建設省（現・国土交通省）が表彰する賞。道路、橋、河川などが対象で、地域の歴史、文化、風土に根ざした創意工夫を評価の基準としている。1986（昭和61）年創設され、市では、同年に第1回手づくり郷土賞として辰井川六橋（ふるさとが誇りとする橋部門）、1987（昭和62）年に草加松原遊歩道（ふれあいの並木道部門）、1988（昭和63）年におせん茶屋（小さなふれあい広場部門）、1989（平成元）年に西町緑道水路（生活の中の水辺部門）、1990（平成2）年に草加六丁目橋（街灯のある街角部門）と、5年連続で受賞した。1992（平成4）年には、札場河岸公園が「暮らしに根づく施設部門」で受賞している。

〈昭和61年7月20日号・昭和62年7月20日号・昭和63年7月20日号・平成元年7月20日号・平成2年7月20日号・平成4年7月20日号〉

➡おせん茶屋　草加松原遊歩道　辰井川　伝右川　西町緑道水路　札場河岸公園　まちなみ景観賞

鉄道高架（てつどうこうか）

地表より高い位置に設けられた線路。1980（昭和55）年5月23日に事業認可を受け、埼玉県と市、東武鉄道株式会社により、1980（昭和55）年6月から東武伊勢崎線の高架複々線化工事がスタート。

1985（昭和60）年12月に松原団地駅南側から新田駅北側の綾瀬川までの2.4kmの既設上り線が高架化。1986（昭和61）年11月、谷塚町から松原団地駅南側までの既設上・下線3.5kmが高架化。1988（昭和63）年8月9日、竹の塚と草加の間の4.1kmが高架複々線となった。これにより草加駅より南側は上・下線ともに高架複々線化された。1988（昭和63）年12月、草加駅から綾瀬川までの既設下り線が全て高架となり、草加駅以北は高架複線、以南は高架複々線となった。これで市内の16か所の踏切も全てなくなった。

1997（平成9）年3月に草加駅から越谷駅までの高架複々線化が完成し、市内の東武伊勢崎線は全てが高架複々線となった。市内区間約5.9km、総事業費は約695億円。

この事業により、踏切事故と踏切による交通渋滞が解消されるとともに、鉄道輸送力は大きく増大し、鉄道利用者の混雑が緩和された。

また、高架下の空間を公園、ミニコミュニティセンターなどの集会所、防災備蓄倉庫等の公共施設に活用し、市民の利便性や安全性の向上も図っている。

〈昭和59年8月5日号・昭和61年10月20日号・昭和63年8月5日号・昭和63年11月20日号・平成元年1月20日号・平成9年3月20日号〉

➡公園　東武伊勢崎線　ミニコミュニティセンター　防災備蓄倉庫

テニスコート

主な公営コートは、1988（昭和63）年4月10日オープンのそうか公園テニスコート（10面）と、1979（昭和54）年5月1日オープンの吉町テニスコート（4面）の2か所。そうか公園テニスコートは全天候型の人工芝コートで、吉町テニスコートは全天候型のハードコート。双方とも硬式と軟式の兼用で夜間照明（吉町テニスコートは1982（昭和57）年8月1日から）も設けられている。そうか公園には、コートに降った雨水を再利用するシステムも採用されている。

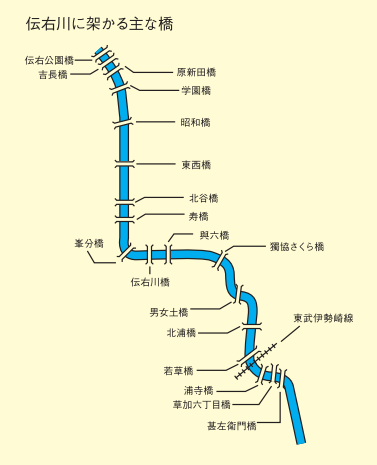
2008（平成20）年現在、そうか公園テニスコートはみどりの協会が、吉町テニスコートは体育協会がそれぞれ指定管理者となっている。

〈昭和54年4月20日号・昭和57年8月5日号・昭和63年4月5日号・昭和63年4月20日号〉

➡雨水利用システム　そうか公園　体育協会　みどりの協会

伝右川（でんうがわ）

市を北西より南に貫流する河川。さいたま市緑区高畑を源とし、同区大門、川口市戸塚の低地を流れて市に入り、札場河岸公園付近では綾瀬川と並行して流れ、足立区花畑で綾瀬川に注ぐ。低湿地帯であった流域の干拓を目的に、関東代官伊奈半十郎忠治の家臣井手伝右衛門が、1628（寛永5）年に開削したとされる。川の名前は開削者に由来し、伝右衛門堀とも呼ばれた。



■峯分橋

■草加六丁目橋

この川は以前、豪雨のたびにはんらんし被害をもたらした。対策として、1928（昭和3）年、増水時に綾瀬川へ水を流す一の橋放水路が掘られた。1979（昭和54）年からは激特事業により大規模な河川改修や橋の架け替えなどが行われた。架け替えられた橋には趣向を凝らしたデザインが施され、草加の名所になっている。そのほか、神明排水機場、松原排水機場、伝右川排水機場も設置されている。

伝右川に架かる橋は、旧日光街道の草加六丁目橋が代表的。かつては草加宿と草加松原を結んだ。現在の橋は、灯ろうを模した親柱、大名行列ののぼり旗をデザインした照明ポールが設置され、江戸情緒豊かな橋として1985（昭和60）年に架け替えられた。建設費3億4040万円。1990（平成2）年、建設省（現・国土交通省）の「手づくり郷土賞」を受賞した。

これ以外にも、上流の伝右公園橋、吉長橋から草加六丁目橋のすぐ下流の甚左衛門橋まで、趣向をこらした橋が並ぶ。主な橋では、ラッコ、コアラなど28点のブロンズ像や日時計のある浦寺橋、風見鶏が回る北谷橋などがある。峯分橋から寿橋にかけては「野鳥のさえずる森」「あいさつ通り」なども整備され、1988（昭和63）年11月「草加八景」に「森と桜の峯分橋」として選ばれている。

〈自然考古編P281・通史編上P417・昭和63年11月20日号・平成2年7月20日号〉

➡一の橋放水路　激特事業　甚左衛門堰　草加宿　草加八景　草加松原　手づくり郷土賞　日光街道　排水機場

電線地中化（でんせんちちゅうか）

市内では現在、電線地中化が各所で順次進められている。計画・施工は場所により、市あるいは県、国が行っている。電線地中化によって「見通しが良くなり、歩道が広くなることで通行の安全性が確保される」「都市景観が向上する」「災害時の安全性が向上する（台風や地震などの災害時に電柱の倒壊や電線が垂れ下がらない）」「情報ネットワークを支える電線類の地中化による、災害時のネットワーク被害が軽減される」などの整備効果が挙げられる。

現在計画中の場所は、草加駅周辺、草加駅東口の旧道の一部区画、高砂から住吉、神明に続く歴史散策路の一部区間、市役所第二庁舎沿いの県道足立越谷線、国道4号の谷塚仲町交差点北側から西町交差点までの区間および花栗交差点から伝右川南側の区間。

地中化が済んでいる場所は、国道298号（開通時の1992（平成4）年に全線地中化）、国道4号の清門町245番地付近（2007（平成19）年）、県道松原団地停車場線の松原団地駅東口～県道足立越谷線（1994（平成6）年）、県道草加停車場線の草加駅東口～県道足立越谷線（2005（平成17）年）、谷塚停車場線の谷塚駅東口～県道足立越谷線（1994（平成6）年）、県道足立越谷線の草加駅入り口交差点～東京方面へ540m（2004（平成16）年、ただし上り線の片側のみ）。

〈平成8年7月5日号〉

天然ガス（てんねんガス）

草加地域では、明治期に掘り抜き井戸から天然ガスの湧出が見られた。戦後の昭和30年代、天然ガス採取を事業の中心に据えた帝国石油株式会社が、1962（昭和37）年2月に瀬崎町と同年7月に八幡町でボーリング調査を行い、約50℃の温水に含まれた水溶性天然ガスの採掘に成功した。これを受けて、温水と天然ガスを利用したレジャー施設の建設計画なども持ち上がったが、採掘によって地盤沈下を引き起こす懸念があり、また、昭和40年代になると公害問題への社会的関心も高まってきたことから、結局採掘は断念された。1981（昭和56）年には、本市を含む県内68市町村が天然ガスと石油の鉱区禁止区域に指定され、それ以後地下資源の開発は不可能となった。

なお、新栄町団地の土地は、帝国石油株式会社が昭和30年代後半に天然ガス採掘のため購入した約7万m²の土地だった。この土地を1969（昭和44）年3月に日本住宅公団（現・独立行政法人都市再生機構）が取得し、団地として造成した。

〈通史編下P611～613〉